

# ホテル子育て 21 年目 !! 泉大津市のハヤブサ

大阪府泉大津市のホテルでは、20 年以上にわたってハヤブサが繁殖しており、それを見守る人々がいる。ハヤブサが訪れたときの様子とこれまでの暮らしぶりを教えてもらった。(編集部)

文・写真・図 ● 阪上幸男

**PROFILE** さかうえ・ゆきお 泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部代表運営委員。日本野鳥の会大阪支部幹事(ホームページ運用担当)。昨年まで、平日は息休みと就業時間前後にこのハヤブサたちを毎日観察できる恵まれた場所に勤務していた。泉大津以外のハヤブサを観察するのも楽しみのひとつ。

## 大阪府内初の繁殖記録

2004 年の春、大阪府泉大津市の 20 階建てのホテル・サンルート関空(現在は関空泉大津ワシントンホテル)の高層階のベランダに積もったハトの糞の山の上で、ハヤブサの雛が産まれていたことにホテルの従業員が気づいた。これが、ホテル・サンルート関空でハヤブサの繁殖が確認された最初の出来事だ。

ホテルはハヤブサ親子を追い払うことなく、2羽の雛が巣立っていった。それが大阪府内初の繁殖記録であり、新聞やテレビでも大きく報じられた。翌年は産卵には至らなかったが、2006 年の春に再びハヤブサはやってきた。それを受けて立ち上がったのが、「泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部」だ。

## 泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部の発足

実は、ホテルの高層階のベランダから巣立っていくハヤブサの行く先には高速道路のパーキングエリアや本線が隣接しており、巣立ち直後に車に轢かれる危険があった。そこで、巣立ち幼鳥たちを見守り、可能なら救助したいという目的で、地元のハヤブサファンやホテルの従業員、日本野鳥の会



阪神高速道路 PA に隣接するホテルの高層階のベランダが、ハヤブサの営巣場所。雌親「さら」に守られて眠りにつく雛たち。本記事の営巣写真はリモートカメラで撮影した



営巣場所のあるホテル。高層階で繁殖している関空泉大津ワシントンホテル



関空泉大津ワシントンホテルの位置。南に関西国際空港がある



初めはハトの糞の山だったところに、石を積み、砂利を敷いて作った営巣場所。雛たちの糞や食べかすなどで汚れた巣を清掃するサポートも行なっている

大阪支部の有志などで泉大津ハヤブサ・サポート倶楽部(以下、サポート倶楽部)を発足。営巣場所に「見守りカメラ」と名付けたリモートカメラを設置し、産卵、抱卵、孵化、巣内での雛の成長過程などを観察し、見守りカメラの映像をホームページで一般に公開する活動を始めた。幸いにも、2006 年の繁殖も順調に進み、6 月までに 4 羽の雛が巣立っていった。

ハヤブサの繁殖期には、ホテルから北側に 100m ほど離れたビルにある阪神高速道路展望室で、ハヤブサを知ってもらうために毎年数回観察会を開催することにした。窓越しにハヤブサたちを望遠鏡や双眼鏡で観察したり、巣に取り付けたリモートカメラで中の様子を見たり、サポート倶楽部会員が撮影したハヤブサの写真を見せたりと、さまざまな企画を考えた。



雄の「きららⅢ」から雌の「さら」へ、ベランダでの求愛給餌の様子



給餌する雌親「さら」、雛たちは立ち上がるのに必死

立地柄、野鳥ファンのみならず、高速道路を利用する人が偶然立ち寄って参加することもあり、ハヤブサについて知ってもらうよい機会になっていたが、残念ながら 2019 年以降は新型コロナウイルスの流行や、展望室が利用できなくなったりして、観察会は中断している。今後の再開を検討中だ。

## 歴代のハヤブサたち

ハヤブサたちは一年を通して繁殖時期以外でも巣に頻りにやってくる。ハヤブサのペアの絆はとて強く、繁殖期以外でも適当な距離を置きながら一緒に暮らしている。どちらかが事故などで落鳥すると、どこからか別の個体が出てきて新しいペアになる。サポート倶楽部ではそんなハヤブサたちを区別するために愛称をつけて呼ぶ。雄親は当地きららタウン(旧大津港周辺地域)の名称にちなみ代々「きらら」と名付けており、「初代きらら」から始まって現在は「きららⅢ」(2024 年 8 月まで)だ。雌は「なぎさ」「いずみ」「そら」「なな」「さら」と変遷し、現在のペアは雄 3 代目、雌 5 代目だ。産卵はしたものの、孵化しなかった年もあるが、2004～2024 年の 21 年間で産卵数 81 個、孵化、巣立ちした数は 60 羽に上っている。ここから巣立った幼鳥たちは、通常ならば 7 月末ごろまでは観察される。それから少しずつ行動範囲を広げ、目撃される頻度は減っていく。各自のテリトリーを構えるための新天地を求めて去っていくのだろう。

## 安全で快適な育児場所

この場所でハヤブサが繁殖を続けている理由は、まず、この場所が子育てをするのにとっても安全な場所であることが考えられる。海岸沿いや山中の岩場は風雨にさらされ、ヘビや野生の獣などに捕食される危険が多いが、ホテルであれば人間が邪魔しない限り、巣立ちまではほぼ順調に子育てが進む。

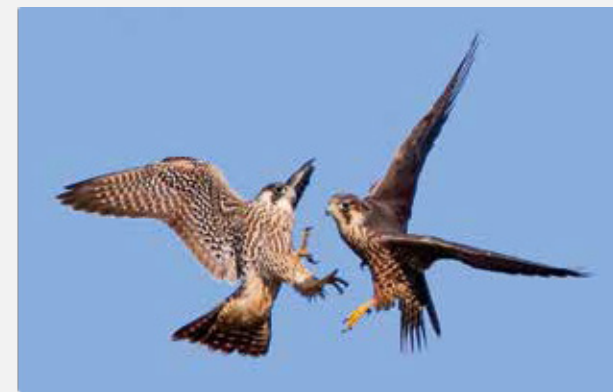


雄親「きららⅢ」の美しい飛翔

この安全な場所と豊かな環境がそろっていることが、毎年ホテルで営巣する大きな要因だろう。

## これからにつなぐために

ハヤブサの子育てを見守る活動は、営巣場所となっている関空泉大津ワシントンホテルをはじめ、阪神高速道路(株)、(株)淀川製鋼所泉大津工場、周辺住民の方の理解や協力あって成り立っている。現地に足を運ぶ際も、周囲の迷惑にならないよう配慮しながら観察してほしい。



大津川周辺で幼鳥同士で飛行訓練をしていた

サポート倶楽部ではハヤブサの子育ての様子をホームページや YouTube、Facebook などで随時更新中。



HP



YouTube



Facebook